

令和6年度第1回千葉県新型インフルエンザ等対策連絡会議専門部会 概要

議事（1）政府行動計画改定の概要について

【質疑応答】

委員：今回の対策で対象となる感染症というのは、コロナとかインフルのようなパンデミックを原則としているのか。

県（事務局）：基本的には、呼吸器感染症を対象としている。

【委員意見】

- 新しい感染症に備えるに当たっては、新型コロナに縛られない、作りこまないことが大事であり、新しい視点が必要である。
- 千葉県は地域（東葛と安房など）によって状況が全く異なり、対応を検討するのに当たり、どこに立ち位置を置くか極めて難しい。初めから区域を分けて考えるのも1つではないか。
- 千葉県の特徴として、大きな国際空港を抱えているという点が挙げられ、空港検疫等の国の機関との連携を進めていただき、平時から強化していただきたい。
- 保健所との訓練に当たり、特定の病院、保健所間でしか通用しないのではないかと懸念が生じた。すべての医療圏で統一できるような対応も計画に含めていただきたい。
- メールも同様だが、FAXでの情報伝達は大事な情報がどこにあるかわからなくなってしまう。情報伝達の方法について御一考いただきたい。

議事（2）「千葉県新型インフルエンザ等対策行動計画」改定案（素案）の概要について

【質疑応答】

委員：マニュアルの改定作業は並行して進んでいくのか。私たちがどこかで管理をするということはないのか。

県（事務局）：マニュアルについては、並行して進むが、基本、庁内の関係者等を中心に行うことになる。もちろん必要に応じて、御意見をお伺いすることがあるかもしれない。その際には御助言等いただきたい。

【委員意見】

- 情報の一元化が必要、正確な情報を1本にまとめて出していただきたい。
- 千葉県では舞浜や幕張などに人が大勢集まる施設がある。そういった施設との情報交換についても必要ではないか。
- 平時からの準備において訓練も大事だが、やはり平時の医療の中で稼働していくことが大事である。既存の感染症の対応にネットワークを作りそれを使うことでアイドリング状態にしておき、パンデミックに備えることが重要だ。
- 専門家の育成について、やはり実数が足りない。行政側の支援も必要ではないか。そうすれば自ずと行政側を支援できる人材は増えることが予想される。
- 保健所の人材確保については前々から大きな課題になっている。具体的な動きがわかるようにしていただきたい。
- 「災害支援ナース」が計画の中にどのように位置づけられるか疑問である。検討をお願いしたい。
- コロナ対応の中で役立った「D24H」というシステムがある。DX推進における準備とは平時から使用することである。特にDMATの先生方が詳しいと思うが、DMATと連携したこともコロナ対応の経験である。
- ワクチンについて、現場において本当に必要な人に先に倒れられてしまっただけでは意味がないため、優先順位について遠慮なく決めておいた方がよい。
- 新型コロナでは、どこの病院に入院させるか、どこが病床確保してくれるかということが大変だった。目に見える形でのネットワークづくりが必要だと感じている。
- 高齢者施設等に関する記載を充実させた方がよいのではないか。
- 検査について、インフルエンザであれば既存のキットを使うと思うが、新型コロナではPCRが中々普及せず、診断から治療といった一連の流れの初動が遅れた。新型インフルエンザ等の“等”だった場合に備えた検査体制も重点項目となると思う。
- 新型コロナの際、経済界は大打撃を受けた。今後の改定作業が進む中で、「県民生活及び県民経済の安定の確保」が削除されないことがないよう強く希望する。